

第4章 重点的な取り組み

市では、第2期計画で構築することとして位置付けられたほっとネットを平成25年度から本格的に展開し、一定の効果が見え始めています。今後もこのシステムを安定的かつ発展的に継続させることを市の地域福祉政策の中心に据えて取り組んでいきます。

また、これまでの課題や市民の意見を踏まえ、次の3項目を本計画の「重点的な取り組み」として設定し、第5章で示す市の施策の中で積極的に取り組んでいきます。そして、いずれの項目においてもほっとネットが中心的な役割を担いながら、地域福祉の推進に取り組んでいくこととします。

まず、「1 団体同士や西東京市全体でのネットワークづくり」により、西東京市内で活躍している団体や様々な機関同士を有機的に結びつけ、円滑な情報の交換、協力体制の確立などに取り組むこととします。

ほっとネットが、ほっとネット推進員や様々な団体・関係機関等との連携をコーディネートするという中心的な役割を担うこととし、これにより制度の狭間において支援を受けられなかった市民を適切なサービスにつないだり、地域での解決が困難だった事例を解決していくしくみが強化されることを目指していきます。

(主な関連施策⇒第5章 1-(2)、2-(3)など)

次に、「2 地域のつながりをつくり、孤立を防ぐこと」により、地域住民同士の交流の促進を図り、地域から孤立することにより必要なサービスが受けられないといったことがないように取り組んでいきます。

ほっとネットでは、地域住民同士の交流を目的とした居場所づくりに取り組んだり、ほっとネット推進員などが孤立している市民と関わるることによって地域の人たちとのつながりをつくるなどの役割を担っていきます。

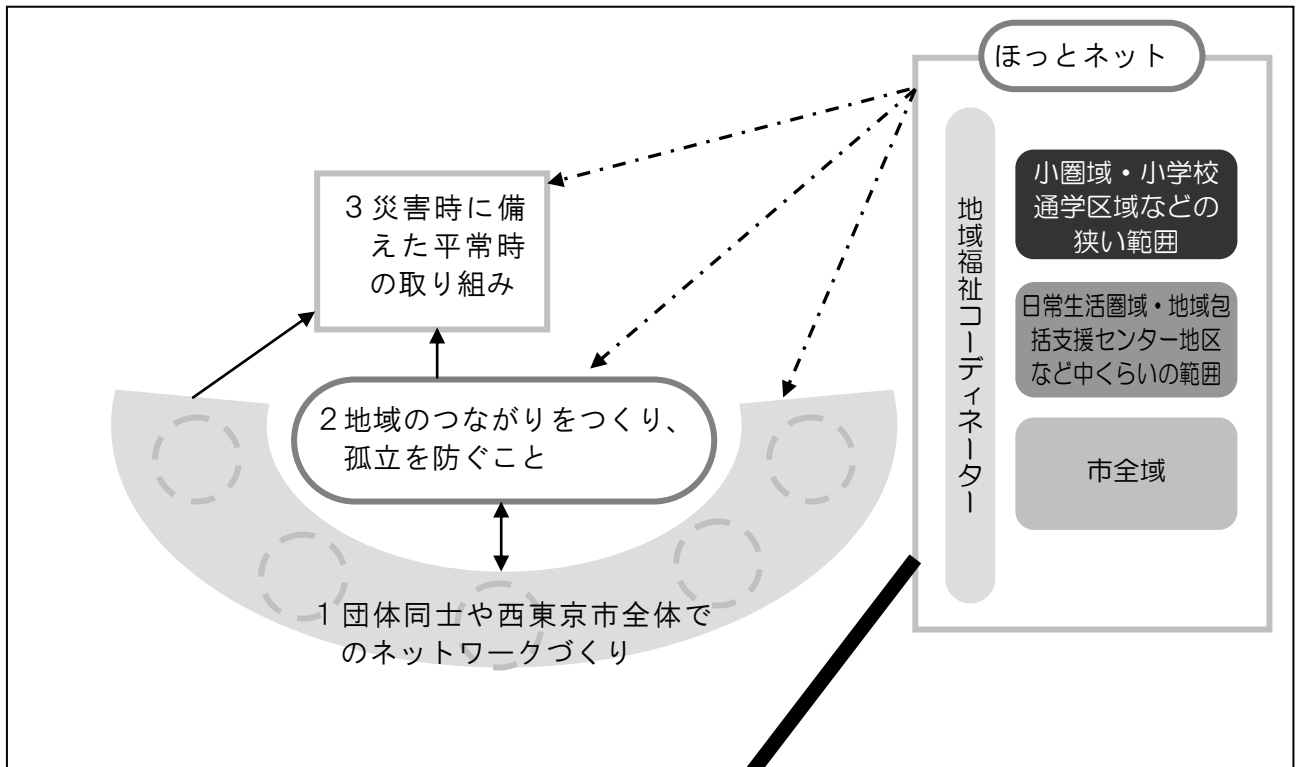
(主な関連施策⇒第5章 1-(2)、2-(2)、3-(1)、3-(2)など)

さらに、地域のつながりをつくるとともに、その地域が自主的に「3 災害時に備えた平常時の取り組み」ができるよう支援・協力していきます。

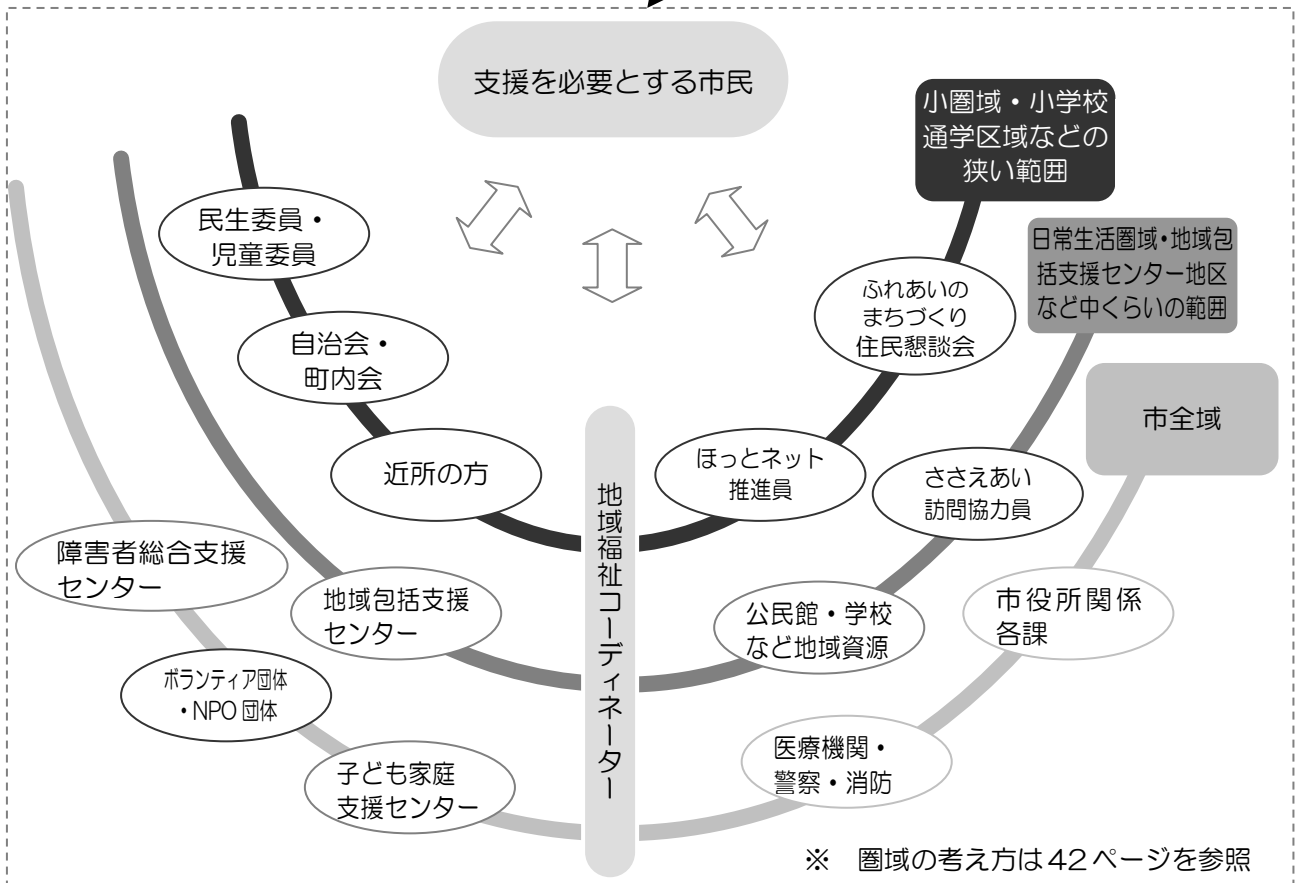
防災訓練などの地域イベントにもほっとネットが積極的に関わっていきながら、非常時への備えに関するニーズの把握にも努めていきます。

(主な関連施策⇒第5章 1-(2)、2-(2)、5-(1)など)

■重点的な取り組み体制イメージ図



■ほっとネットイメージ図



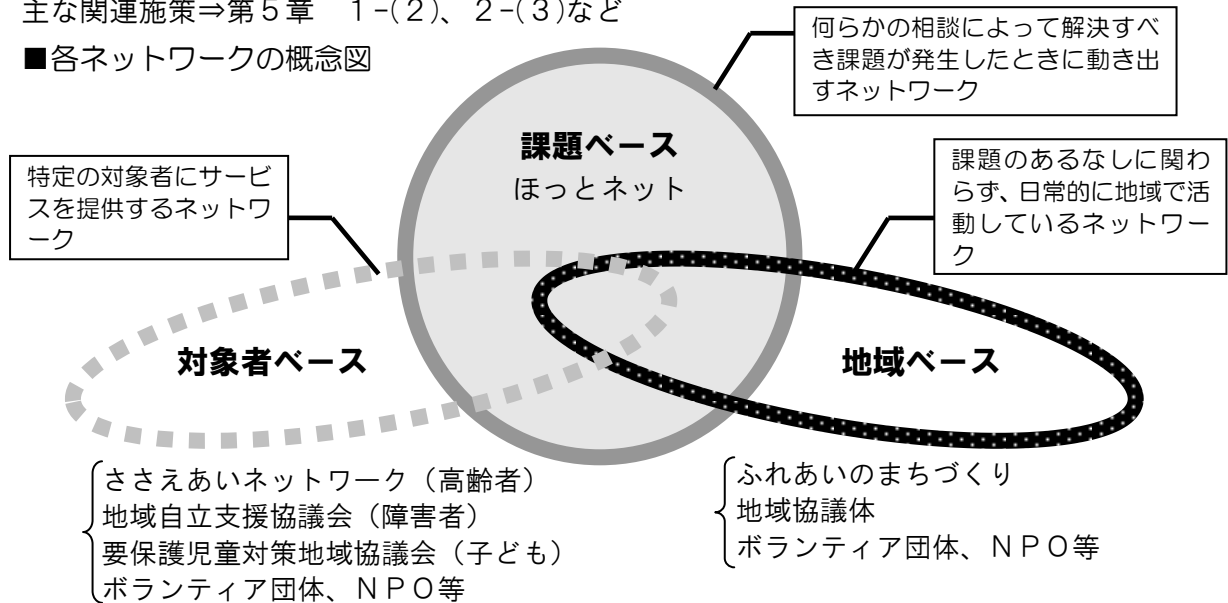
1. 団体同士や西東京市全体でのネットワークづくり

西東京市においては、第2期計画からスタートした「ほっとネット」や社会福祉協議会で実施する「ふれあいのまちづくり事業」、高齢者関係の「ささえあいネットワーク事業」等の福祉に関する支援のネットワークが存在し、今後も、「地域包括ケアシステム」やコミュニティ再生に関する「地域協議体」等の、様々な目的をもったネットワークの構築が予定されています。

これらのネットワークはそれぞれ設置の目的や支援の対象が異なることから、それぞれが独立して本来の役割を果たしていくのはもちろんですが、ほっとネットが核となり、それらのネットワークの有機的な連携をもたらすことにより、網の目のように支援の体制を張り巡らせ、本来交わることのない団体同士であっても連携ができるような西東京市全体でのネットワークづくりを進めていきます。

主な関連施策⇒第5章 1-(2)、2-(3)など

■各ネットワークの概念図



■地域での活動のヒント

地区懇談会の中で各グループで取りまとめた、地域で活動を進めるためのアイデアです。



組織の活性化・連携を深める！

地域組織活性化プロジェクト（中部）	<ul style="list-style-type: none"> 自治会の連携（代表の方が集まる） 地域リーダーの育成のための講演会→自治会をつくる 自治会ガイドブック活用、具体化 ほっとネット、ふれまち、自治会、民生委員の顔合わせ
つながる地域プロジェクト（西部）	地域の活動団体の連携による新たな絆づくり



人づくり！

地域活性化のための、人づくりプロジェクト（中部）	<ol style="list-style-type: none"> 1) 地域の場づくりの土台・骨組みとなる、現在地域で活動している団体や人の連携を図る（集まる、知り合う、協力する、目的意識を共有する）。人起こし、人材の発掘 2) 地域の実踏をする。拠点の在り方を検討する（まち歩き、見学会等）
--------------------------	--

■各ネットワークの概要

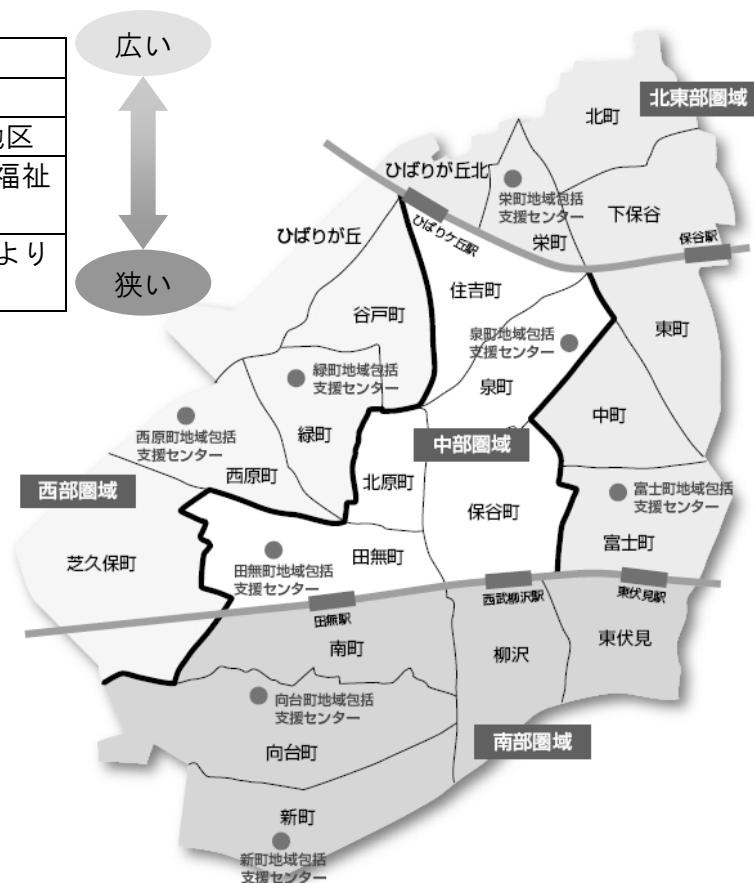
ベース	名称	エリア	目的
課題	ほっとネット	日常生活圏域 4 地域	地域の課題を発見し、地域福祉コーディネーターを核として、様々な人や機関をつなげ、一緒に解決に向けて取り組む
対象者	ささえあいネットワーク	地域包括支援センター地区 8 地域	高齢者の見守りの中で異変に気付いたら関係機関へつなぐ
	地域自立支援協議会	市全域	地域の障害福祉に関するシステムづくりに関し、中核的な役割を果たす
	要保護児童対策地域協議会	市全域	虐待を受けた児童などに対する体制強化のため、関係機関が連携を図り児童虐待等への対応を行う
地域	ふれあいのまちづくり	小学校通学区域（小域福祉圏） 20 地域	小学校通学区域を中心に住民懇談会等、地域に即した活動を行う
	地域協議体	日常生活圏域 4 地域	自治会・町内会の再生・活性化を行い、地域課題の解決に取り組む

コラム ★地域包括ケアシステムとは・・・★

「地域包括ケアシステム」とは、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で生活を継続することができるような包括的な支援・サービスの提供体制を構築することをいい、高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に位置付け、実現に向けて取り組んでいます。なお、元来このシステムは、高齢者に限定されるものではなく、障害者や子どもを含む、地域のすべての住民のためのしくみであり、すべての住民の関わりにより実現していくことが重要とされています。

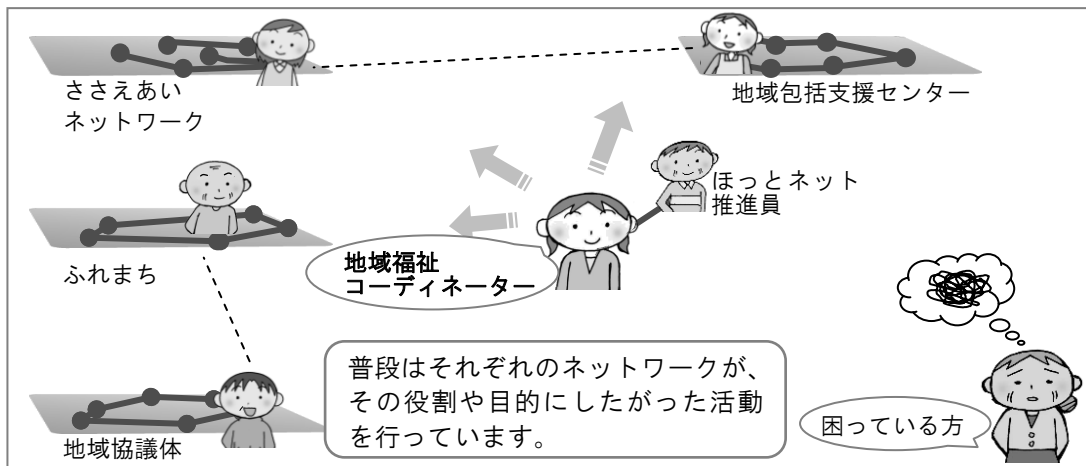
■圏域等の考え方

1 地域	市全域
4 地域	日常生活圏域
8 地域	地域包括支援センター地区
20 地域	小学校通学区域（小域福祉圏）
	小圏域（小学校通学区域よりも身近な地域）



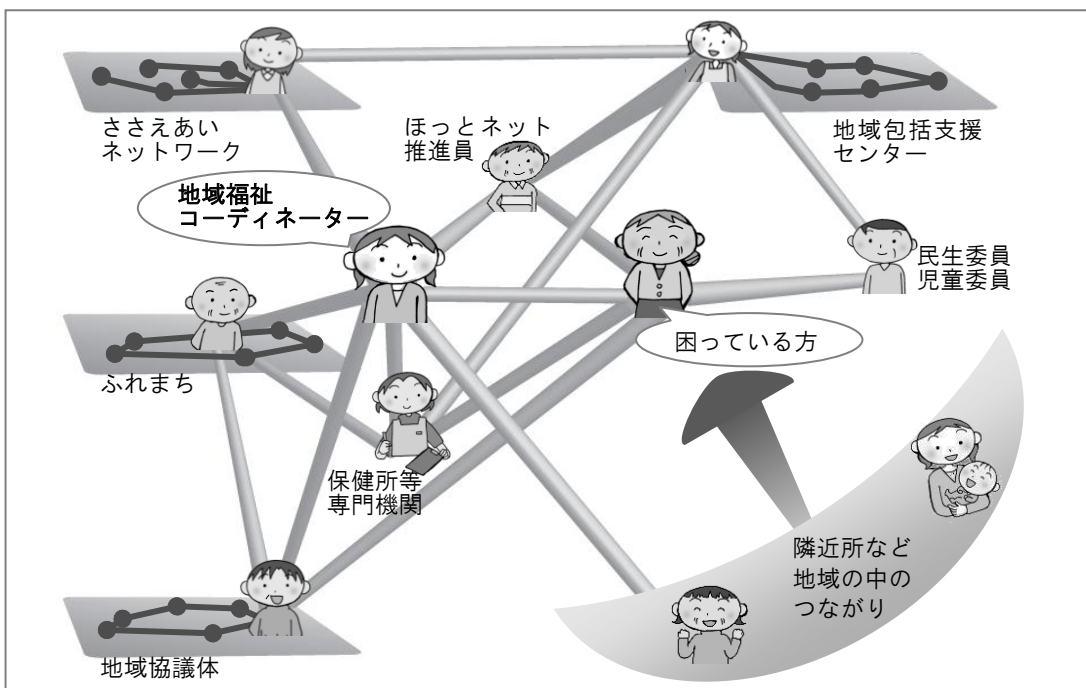
※ほっとネットの日常生活圏域は、小学校通学区域を単位として設定しており、上の図とは若干異なります。

■ほっとネットと各ネットワークの関係図



地域で解決することが難しい課題をほっとネットが把握した時に…

様々なネットワークがつながるイメージ



- 普段、各ネットワークやそれを構成する人や機関は、それぞれがその役割や目的に沿って活動をしています。
- 地域福祉コーディネーターは、困っている人の課題に応じ、支援に必要なネットワークや機関などを結びます。公的な機関ばかりではなく、自治会やふれまちなどの住民組織や個人も支援者として結んでいきます。
- 地域福祉コーディネーターを核として構築される支援のネットワークが、ほっとネットです。
- ほっとネットでつながった、ほっとネット推進員、民生委員・児童委員、ボランティアや近隣の住民、保健所等の専門機関などが多方面から困っている人につながるにより、解決に向けた支援を一体的に行うことができるようになります。
- 地域福祉コーディネーターは、課題発生時に、すぐにほっとネットを網の目のように張り巡らせるよう、日頃から良好な関係づくりに努めています。

2. 地域のつながりをつくり、孤立を防ぐこと

少子高齢化が進む中、ひとり暮らしの高齢者は多くなっており、アンケートや地区懇談会結果を見ても、隣近所とのつながりは希薄になっている状況にあります。そのような中、支援が必要に見受けられるのに関わりを拒絶する人や、支援が必要という声を挙げられない人など、地域の中で孤立してしまう人が近年増えてきており、いざという時に備えた対応が急務となっています。

そのため、日頃の近所付き合いや、ほっとネット、ふれあいのまちづくり事業などを通じた地域のつながりをつくり、孤立を防ぎ、必要な支援へと結びつけるための取り組みを進めていきます。

主な関連施策⇒第5章 1-(2)、2-(2)、3-(1)、3-(2)など



■ 地域での活動のヒント

地区懇談会の中で各グループで取りまとめた、地域で活動を進めるためのアイデアです。

イベントを通じてつながりをつくらう！

大野立てプロジェクト(南部)	市内全域で野立て・市民交流。まず南部で実施し、長期的には市の全域で実施する
みんなで楽しもうプロジェクト(中部)	茶話会、歌声喫茶、料理教室の開催
イベントで楽しみ輪(西部)	自治会をつくるため、自治会を維持するため。春夏秋冬多く開催。子ども～お年より手と手をつなぐ楽しいもの
身近で小さなつながりづくりプロジェクト(北東部)	1) イベントを通じたつながりづくり(気軽に集まれる)、既存の団体(自治会など)の活用、学校の活用 2) 市民の情報マスターをつくる(物知りな人) 予算必要!
イベントスタンプラリープロジェクト(北東部)	市内で行っている様々なイベントを一覧にして配布し(イベントコーディネーター)→1人1回以上イベントに参加してもらい→スタンプを集めてもらい景品交換する等(地域通貨、イベントマイスター)

高齢者の孤立を防ごう！

ピーポくんとささえあいの輪(西部)	ピーポくんのいいところを学ぶ(高齢者向け)。ささえあい広めよう(シール)。地域包括支援センターや市で更に募集。PTAにレクチャー(連携)。気軽に、防災マップづくり
コミュニティの輪づくりプロジェクト(西部)	地域で高齢者が孤立しないよう高齢者自身が情報を周囲に発信しやすい環境づくり

気軽に集える居場所をつくらう！

人をつくって、たまり場プロジェクト(中部)	条件、運営の仕方、形態を考える。たまり場(家主)への交渉
地域の居場所プロジェクト(西部)	身近な場所に気軽に集うことができる居場所をつくる
多拠点大発掘プロジェクト(南部)	市内空き家MAPをつくる。すぐに→マップづくり。長期的→活用する
コミュニティをつくらうプロジェクト(中部)	美化・防災のイベント、居場所づくり。ひとり暮らしの方、場所を貸してもらおう。月1回、情報交換、周知

3. 災害時に備えた平常時の取り組み

平成 23 年の東日本大震災以降、災害への意識は高まっており、アンケートにおいても「隣近所との関わりが必要だと思うのは緊急時の際」という答えが多くなっています。また、地区懇談会では、支援が必要な方の把握ができていない現状も浮かび上がってきています。

そのため、災害時に備え、平常時から声かけやさりげない見守りなど地域の中でのつながりをつくるとともに、避難訓練等への積極的な参加を促す取り組みを行っていきます。

主な関連施策⇒第5章 1-(2)、2-(2)、5-(1)など



■ 地域での活動のヒント

地区懇談会の中で各グループで取りまとめた、地域で活動を進めるためのアイデアです。



災害に備えよう！

自分の避難場所を知ろうプロジェクト（北東部）	地元の避難場所を知ろうプロジェクト：近所の避難所マップをつくり全戸配布（各自に避難場所を確認してもらう）→確認結果を書面で確認（知っている？自力で行ける？助け必要？どんな助け？）→地域ごとに集計→紙上でシュミレーション→実施
災害時支援体制プロジェクト（北東部）	1) 災害時要援護者登録リストの取扱いの方法について、制度をつくる。地域の避難訓練を実施する 2) 大規模集合住宅の見守り、支援のあり方を検討する
地域で防災プロジェクト（南部）	一番の関心である「防災」について、ある物を活用しながら、意見の収集、実際に避難などの体験（α米などおまけつき）、一人の方が不安にならないようなことを元気な人たちで考える